

平成30年度くるめ園事業報告

1 総括

平成30年度は、日中活動の更なる充実を目指して活動してきました。平成29年度は月平均83名のご利用者が日中活動に参加していましたが、平成30年度は大幅に増加して平均126名の方に参加して頂きました。新たに設けた「機織手芸クラブ」は好評で、参加者の創作意欲も高く、今後はご利用者の作品を地域に向けて発信できるよう工夫していきます。平成29年度途中から欠員が続いた機能訓練士については、清瀬療護園の協力もあり4月から専門職によるリハビリを実施することができました。

多種多様な障害や病気を抱えて入所されるご利用者において、処遇困難なケースや終末期のご利用者の対応などにつきましては、職員自らの発案で専門家を招聘した事例検討や勉強会を開催するなど課題解決や専門性の向上に努める事ができました。

一方で課題としては、若年層の入所で平均年齢は若干下降していますが、高齢・重度化は確実に進んでおり、1月には3名のご利用者が相次いでお亡くなり、予期せぬ空床が発生し利用率が低下しました。来年度は空床問題を解消するために、実施機関や関係機関との連携を更に強化して、入所を前提とした一時入所事業を活用できるよう整備していきます。また、全国の救護施設が取り組む施設から地域生活への循環型の施設を見据えて、地域の社会資源と連携しながら地域移行にも積極的に取り組んでいきます。

建設から30年を超えたまりもビルにおいては、経年劣化による修繕などが頻繁に発生しています。今後も予想される修繕に関しましては法人本部とまりも園とで協議をしたうえで優先順位をつけ計画的に実施していきます。

2 利用状況

入所(50人)は、1日平均46.7人で、利用率は93.6%です。救護施設ですので、月の初日に在籍している人数に応じて措置費・補助金が支給されます。初日在籍率は49.3人でした。

利用者は重度の身体障害者が多いですが、近年は薬物依存を含めた精神障害のある人も増えています。社会状況の変化により重度身体障害者の支援にこだわるのは限界にきています。救護施設として今の生活保護の需要も分析し、新たな受け入れの目標、受け入れ方が課題になっています。

3 重点目標の取り組みと来期の課題

1) ご利用者が心地よさを感じて過ごせるサービスの提供を目指します。

【目標】

- 1 現行の半日外出支援に加えて、昨年度後期より1日外出支援を試行してきましたが、今年度は正式な支援として計画的に実施していきます
- 2 日中活動についても更なる充実を図り、ご利用者自身が選択して活動に参加できるようにしながら、単調になりがちな施設生活がご利用者にとって少しでも潤いのある生活の場となるよう、季節感を感じられる行事を実施していきます。
- 3 昨年度9月から中断していたリハビリを4月から再開し、高齢化・重度化しているご利用

<p>者の機能維持・向上に努めて事故防止に繋げていきます。</p> <p>4 苦情解決制度を活用しながらご利用者の意見を汲み上げることで提供しているサービスの改善・向上を図っていきます。</p>
<p>【取り組み】</p> <p>1 日外出支援を支援の一つに加えて業務に取り組みました。日中活動では活動が作品として残る物、自分たちで作る・食べる楽しみと食中毒などを同時に学べる活動を新たに追加しました。専門職によるリハビリを再開させるため清瀬療護園に協力を仰ぎました。また言葉によるコミュニケーションの訓練を実施するため言語聴覚士の確保に努めました。感染症対策の一環としてポンプ式の石鹸やアルコール消毒液を見直しました。</p>
<p>【取り組みの結果】</p> <p>昨年度は月平均 124.8 名のご利用者が日中活動に参加していましたが、今年度は月平均 165.5 名と更に多くのご利用者が参加しました。1 日外出支援につきましては正式な支援として取り組み、年間通して希望された方が 9 名と予想を下回りましたが、希望者全ての方が外出を楽しむことができました。機能訓練に関しては回数を増やすことで補装具やリハビリメニューの見直しにも積極的に取り組みました。言語聴覚士については法人外の施設などにも声掛けをしましたが、確保することはできませんでした。感染症に関しては、インフルエンザ・風疹ともそれぞれ 1 名の発症者で抑える事ができました。</p>
<p>【来期の課題】</p> <p>介護未経験の職員も増え介護にもバラつきがあるため、安心・安全な介護を提供するために外部講師を招聘して介護技術の習得を図っていきます。言語聴覚士については継続的に人材確保に努めていきます。また、地域移行を希望されるご利用者に対してはグループホームの体験入所を通じて地域生活に対する具体的なイメージを提供していきます。施設生活においても外出等の支援や行事食の提供などを通して単調になりがちな生活に変化を付けていきます。</p>

2) 職員が笑顔で働ける環境の整備を目指します。

<p>【目標】</p> <p>1 慢性的な人員不足の中で勤務体制の見直しや介護機器の導入、清掃作業などの間接業務は専門職を採用して対応してきました。今年度は夜警業務を完全に業務委託にして介護職員が夜警職員の代替で対応する負担を無くしていきます。</p> <p>2 各種業務については職員によるサービスの質の差を解消すべく、業務マニュアルの見直しを含めた整備を行い業務の標準化を進めていきます。また、介護職員の負担を軽減していくため、開設当初から設置されている畳式のベッドをギャッジベッドへ順次交換していきます。</p>
<p>【取り組み】</p> <p>介護度が高いご利用者から優先順位を付けてギャッジベッドへ順次交換しました。夜警業務については民間の会社に依頼して業務委託を進めていきました。統括主任を中心にマニュアルの整備を進めました。受動喫煙に対する苦情も考慮して喫煙場所の見直しを図りました。</p>
<p>【取り組みの結果】</p> <p>ギャッジベッドについては計画通り交換ができ、負担軽減につながりました。マニュアルの整備については、現行 38 のマニュアルを整備しました。面接室のブラインドを撤収してカーテ</p>

ンに入れ替えたことで面接室の雰囲気は改善されました。夜間警備連絡員については上期に警備会社に断られたため、下期はヘルパーステーションを中心に打診していきましたが現状契約には至っていません。フロアー内にあった喫煙部屋を撤収して男性棟の屋外バルコニーへ移動しました。

【来期の課題】

昨年度10月より欠員となっている精神科の嘱託医の配置を目指していきます。夜間警備連絡員の業務委託については来期も継続して業者を探していきませんが、並行して夜警業務の見直しも実施していきます。業務マニュアルの見直しを図りながら、各委員会のマニュアルを整備していきます。建物の老朽化が進んでおり毎年予定外の修繕も発生しています。このため法人・まリモ園を含めて業務調整会議を開催して、共有部を含めた修繕計画を作成していきます。

3) 地域福祉ニーズに対応するサービス提供を目指します。

【目標】

- 1 様々な事情で居宅生活が困難になった方や退院に向けた体験利用や訓練のために、一時的な入所を受け入れていきます。
- 2 施設設備に関しては会議室や多目的室、カラオケ等の器具を地域住民へ無償で開放していきます。
- 3 地域住民の交流促進の場として生涯学習教室を開催していきます。更に関係機関と連携を図り、ボランティア講習会の開催を目指します。

【取り組み】

現在入所を受け入れている実施機関や病院等に対してくるめ園の空き情報や利用者状況などを具体的に記載して情報提供しました。生活困窮者就労支援事業については、その前段階である就労準備事業についても新たに取り組むをはじめました。生涯学習教室については月2回の開催を目指し、駐車スペースを利用してパンの移動販売も新たに実施していきます。その中で又、地域への情報発信力を高めるため、建物前に掲示板を設置して様々な情報提供を実施しました。

【取り組みの結果】

実施機関等から施設利用についての問い合わせの数も増えました。1月に立て続けてご利用者がお亡くなりになりましたが、情報提供もあり入所につなげる事ができました。生活困窮者の支援については、いわゆる引きこもりの対象者の方が就労体験を通じて一般就労に繋がりました。生涯学習については月2回の開催、施設駐車場を利用したパンの移動販売につきまちは継続できました。また、掲示板を設置したことで通行人からの問い合わせなども増えてきています。

【来期の課題】

現状ではADLが高い方は問合せの段階でお断りしていることが多い。くるめ園の長い歴史を継承していきたい所ではありますが、待機者が少なくなっていく中では方向性を転換していくことも検討していきたい。社会資源の一つとして生活困窮者の就労準備事業を継続していくこと、社会福祉協議会と連携を図って地域のニーズを把握していきます。大規模災害を見

据えて、食料の備蓄や緊急時の体制などの見直しを進めます。

4) 職員の連携と主体性に基づくサービス提供を進めて行きます。

【目標】

- 1 ご利用者サービスについては、個別支援計画を踏まえた上でケースカンファレンスを引き続き毎月2回開催し、全職種が参加することで効果的で組織的なサービス提供を実施していきます。
- 2 事業計画の進捗状況の確認を3か月ごとに主任会議または職員会議で確認し、必要に応じて実行計画の方法や修正を検討していきます。

【取り組み】

ケースカンファレンスは全職種が参加して月2回の開催を実施していきます。困難ケースに関しては専門家を招集しての研修やカンファレンスを開催します。重点目標に関しては四半期ごとに状況を確認していきましました。

【取り組みの結果】

ケースカンファレンスは全職種が参加することで幅広い意見が出ることで支援内容は充実してきている。また、職員お提案により困難ケースや特別なケアが必要なケースについては医師や保健福祉センターの専門家を招聘して研修やカンファレンスを行うことができ、具体的なアプローチ方法や対処方法などを学ぶことができ、より良い支援に繋がった。重点目標の進捗状況についても一応確認する事ができたが、その重要性についてしっかりと理解されていないことが現状です。

【来期の課題】

現在のケースカンファレンスでは参加者の意見から計画内容が変更される事もあるなど、会議は活発になってきています。一方で参加者が限定されていることもあり、より内容を充実させるためには開催方法の検討をしていきます。また、他施設のケースカンファレンスを見学して良いところを取り入れていく必要もあります。何故そのことに重点的に取り組もうとするのかを考え、その重点目標を基に各職種においてより具体的に目指す姿勢を設定していきます。

5) 施設財政の健全化に努めます。

【目標】

- 1 平成30年の利用率目標は97%と定めます。目標を達成するために待機リストの見直し等を図りながら待機者を確保して退所時の空床期間を減少させていきます。また、保護施設一時入所事業も活用して地域貢献を図りながら収入の微増に繋げていきます。
- 2 収入・支出を含めた予算の執行状況を主任会議で確認して、施設の運営状況を職員全体で把握していきます。

【取り組み】

現状は待機者ゼロなので、東京都を通じて福祉事務所のブロック会議においてくるめ園の案内等を配布してもらいくるめ園と一時保護事業についての周知を図りました。また、ご利用者との面談で来園されたケースワーカーには空き状況などの情報を積極的に伝えたり、面識のある

実施機関や病院等に対してくるめ園の空き情報や利用者状況などを具体的に記載して情報提供しました。施設の運営状況については四半期ごとに収入・支出の状況を主任会議で提供してまいりました。

【取り組みの結果】

実施機関等からの問い合わせは増加し、入所にもつながってきています。ただ入院者も多く目標としていた97%から利用率を下回り93.6%となりました。

【来期の課題】

開所当時より法整備がされていない時代に障害者の居場所を作ろうと、重度の身体障害者を受け入れてきましたが、時代の流れもあり入所者の確保が難しくなっていく中で、利用対象者については継続的に検討していく必要があります。その中で入所を目的とした一時入所事業を活用して、段階的に待機者を増やしていきます。

施設の運営状況については、単年度としての収支バランスは崩れてきており、年間550万円前後の昇給財源を含めた支出について検討していきます。また、収支についての具体的な数字を出し、昨年比なども活用して分かりやすくしていきます。

4 申出のあった苦情の対応

なし。

5 発生した事故の状況

種別	件数	内容と対応
関係機関報告事故	1	右脚大腿骨骨折。歩行器を使用せずに自力歩行中転倒。人工骨頭置換手術を行い、1か月後にリハビリに特化した病院へ転院。 本人には繰り返し歩行器の使用を促していきます。

6 職員体制

(平成31年3月31日現在)

	施設長	副施設長	事務員	生活指導員	医師	介護職員	看護職員	理学療法士	栄養士	調理員	計
職員数	1	1	2	3	2	30	4		1	7	51
うち常勤	1	1	1	3	0	28	2		1	4	41
常勤換算	1	1	2	3	0.1	29.8	2.7		1	5.5	46.025

7 研修の実施状況

1) 施設内研修

研修テーマ	内容	講師	参加職種	延回数	延人員
介護方法について	新人職員を対象に介護方法の基礎を学ぶ。	介護主任及び先輩職員	介護職員	1	6名
事例検討会	精神疾患の利用者2名をピ	多摩総合福祉	指導員、看護	1	8名

	ックアップし、事例検討会のやり方を含めて学習する。	保健センター (精神科医、 保健師)	師、介護職員		
虐待研修	虐待の起こる背景を学習し、グループに分かれてディスカッションを行う。	担当介護職員	指導員、介護職員	1	10名
パーソナリティ障害及び解離性障害の理解と支援	精神科のDr.を招き、現在支援の困難な境界性パーソナリティ障害の方の支援方法について学ぶ。	東京共済病院 精神科 大内先生	園長、副園長、 事務職員、指導員、 介護職員、	1	22名
事故予防について	年間の事故報告書から、個別の事例をピックアップし、原因と対策について検討する。	介護職員	介護職員、看護師、	1	6名
他施設見学	別の救護施設の見学をすることで、自分たちの支援のやり方を考える。	救護施設村山 苑、さつき荘	園長、指導員、 介護職員	1	8名

2) 施設外研修

研修名	主催	参加職種	人員
チームで取り組む褥瘡・感染対策	メディカルケアサポート	介護・医務	2名
精神保健福祉概論	多摩総合精神保健福祉センター	医務	1名
精神科領域の疾病の理解	〃	介護	1名
関東地区救護施設研究協議会	関東地区救護施設協議会	介護・事務	5名
自閉症当事者の世界への理解と支援	都通研	介護	1名
はじめて学ぶ社会福祉	東社協	介護	1名
身近な病気“統合失調症”	小平けやきの会	介護	2名
全国救護施設研究協議大会	全救協	介護	2名
大人の隠れ発達障害	榎本クリニック	介護・医務	4名
関東地区救護施設協議会職員研修会	関救協	介護	1名
リーダーのスキルアップ研修	ルーテル学院大学	介護	2名
依存症問題（依存症応用研修）	多摩総合精神保健福祉センター	医務	1名
改めて学ぶ生活保護法	救護部会	介護・生活指導員	5名
依存症問題（物質依存概論）	多摩総合精神保健福祉センター	介護	1名
障害者虐待防止研修	〃	介護	1名
依存症問題（ギャンブル依存）	〃	医務	1名
依存症問題（物質依存支援論）	〃	介護	1名
共同意志決定支援	〃	介護	1名
市民講座 依存症って何？	救護施設自省館	介護	1名

認知症“人の理解”と適切な関わり方	日本通所ケア研究会	介護	2名
-------------------	-----------	----	----

8 行事の実施状況

実施月日	行事名	実施場所	参加者			
			利用者	職員	その他	計
4/14	おやつパーティー	地下多目的ホール	25名	2名		27名
5/3～4	ゆず湯	風呂場	48名			48名
5/23～24	1泊2日バス旅行	川越	33名	25名	11名	69名
6/17	おやつパーティー	地下多目的ホール	22名	2名		24名
6/21	合同俳句短歌の会	あかつき	2名	2名		4名
8/15	おやつパーティー	食堂	27名	2名	3名	32名
8/25	小平団地まつり	小平団地	4名	5名		9名
9/15	光バンドチャリティーバンド	日の煉瓦ホール	1名	1名		2名
9/17	清瀬療護園まつり	清瀬療護園	3名	2名	2名	7名
9/22	日帰り旅行	立川	2名	2名		4名
10/6	秋祭り	食堂	32名	18名	14名	64名
10/23	合同ゲーム大会	あかつき	4名	4名		8名
11/3	学芸大学学園祭	学芸大学	6名	6名		12名
12/1	障害者の日の集い	中央公民館	7名	7名		14名
12/16	ふれあいトリオコンサート	上野	3名	3名		6名
12/20, 21	ゆず湯	風呂場	46名			46名
12/20	友近やっくんイベント	食堂	20名	10名		30名
12/20	おやつパーティー	地下多目的ホール	23名	3名		23名
12/20	クリスマス夕食会	食堂	47名	16名		53名
1/1～3	正月3が日（初詣）	八坂神社	32名	18名	12名	62名
1/26	新年会	食堂	46名	18名	5名	69名
3/6	お好み食	食堂	45名	15名		60名
3/9	移動水族館	地下多目的ホール	28名	5名		32名